

建設 HR 独自分析レポート

建設業関連 6 業種における 2022 年度 3 月期 第3四半期決算のまとめ

～建設業関連 6 業種、売上高は増収になるも、収益性は低下～

公開日：2022年3月17日

建設HRでは、独自レポートとして、四半期毎の建設業関連業種における決算情報をまとめて、建設業界の展望を予測しています。今回は、建設業関連の6業種（総合工事業、土木工事業、電気・電気通信設備工事業、管工事業、プラント・エンジニアリング業、住宅・不動産業）の上場主要10社の2022年3月期第3四半期の決算結果についてまとめました。

<総合工事業> 収益性は第2四半期より若干改善

大手ゼネコン4社（鹿島建設、大林組、大成建設、清水建設）は、4社ともに営業利益、経常利益、純利益の前年同四半期比が改善しており、鹿島建設の純利益は第2四半期の前年同四半期比3.8%減から同6.4%増と増益に転じています（図表①）。

前年同四半期比を公表していないインフロニア・ホールディングスを除く9社合計では、売上高は前年同四半期比3.4%増（第2四半期は2.5%増）、営業利益32.8%減（同42.7%減）、経常利益27.8%減（同39.3%減）、純利益25.6%減（同36.3%減）となり、いずれも第2四半期よりも改善しています。

【図表①】 総合工事業上場主要10社の2022年3月期第3四半期決算（連結）の実績

	企業名	2022年3月期第3四半期								
		売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
1	鹿島建設	1,482,578	6.7%	88,655	-11.7%	106,809	-4.2%	81,423	6.4%	増収増益
2	大林組	1,376,141	7.8%	46,105	-46.9%	52,746	-42.1%	38,372	-46.1%	増収減益
3	大成建設	1,005,967	3.2%	51,810	-37.0%	58,555	-32.6%	40,542	-29.1%	増収減益
4	清水建設	1,003,328	-2.6%	24,625	-65.1%	29,920	-60.2%	23,535	-57.4%	減収減益
5	長谷工コーポレーション	626,052	13.1%	61,465	31.8%	60,976	33.3%	41,826	34.5%	増収増益
6	インフロニア・ホールディングス	482,288	-	17,557	-	17,980	-	10,703	-	-
7	戸田建設	356,652	1.0%	16,620	15.2%	19,926	18.4%	13,484	19.9%	増収増益
8	五洋建設	326,596	-4.6%	12,954	-41.4%	12,737	-41.6%	8,991	-40.1%	減収減益
9	熊谷組	300,573	-4.3%	15,244	-20.4%	15,846	-17.7%	10,781	-11.0%	減収減益
10	三井住友建設	279,319	-6.7%	-11,490	-	-11,670	-	-8,809	-	減収赤字化
	合計	6,757,206	3.4%	305,988	-32.8%	345,845	-27.8%	250,145	-25.6%	増収減益

※インフロニア・ホールディングスは前年同期の数値を公表していないため、合計は同社を除いた9社の合計値を記載しています

<総合工事業の通期予想> 鹿島建設が売上高を300億円、純利益を90億円上方修正

総合工事業の通期業績予想では、鹿島建設が売上高2兆800億円（前回予想より+300億円）、営業利益1,175億円（同+80億円）、経常利益1,440億円（同+240億円）、純利益950億円（同+90億円）と上方修正しています（図表②）。上方修正の要因としては米国およびヨーロッパの建設事業、開発事業が好調であることを挙げています。

一方、五洋建設は売上高4600億円（同▲310億円）、営業利益180億円（同▲110億円）、経常利益170億円（同▲115億円）、純利益115億円（同▲85億円）に下方修正しています。下方修正の要因としては、受注高が期首

の予想を下回ったこと及びシンガポールの大型土木工事で約50億円の工事損失を計上したことを挙げています。増収増益予想は長谷工コーポレーションと熊谷組の2社となっています。

前年比を公表していないインフロニア・ホールディングスを除く9社合計では、売上高は前期比増減率7.0%増ですが純利益は29.6%減と、増収ではあるが大幅な減益の予想になっています。

【図表② 総合工事業上場主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
鹿島建設	2,080,000	9.1%	117,500	-7.7%	144,000	3.1%	95,000	-3.6%
大林組	1,960,000	10.9%	34,500	-72.0%	40,000	-68.9%	35,000	-64.6%
大成建設	1,640,000	10.8%	90,000	-31.0%	93,000	-31.6%	63,000	-31.9%
清水建設	1,550,000	6.4%	76,500	-23.6%	77,000	-27.0%	58,000	-24.8%
長谷工コーポレーション	850,000	5.0%	78,000	7.0%	75,000	4.4%	51,000	5.7%
インフロニア・ホールディングス	710,000	-	40,000	-	39,700	-	25,400	-
戸田建設	515,000	1.6%	23,600	-14.8%	25,700	-15.4%	16,900	-14.4%
五洋建設	460,000	-2.3%	18,000	-40.9%	17,000	-44.3%	11,500	-45.2%
熊谷組	451,000	0.2%	27,000	-3.8%	27,400	-3.5%	18,600	3.8%
三井住友建設	410,000	-2.8%	-8,300	-	(10,800)	-	-9,000	-
合計	9,916,000	7.0%	456,800	-30.3%	488,300	-28.6%	340,000	-29.6%

※インフロニア・ホールディングスは前年同期比を公表していないために、合計においては同社を除いた9社の合計値を記載しています

※前回見込みから修正があった個所は青字で表記しています。

<土木工事業> 材料価格の上昇等により収益性は厳しい状況が続く

道路舗装工事を主力とするNIPPO、日本道路、世紀東急工業の3社が大幅な減益となっています（図表③）。3社ともに営業利益が前年同四半期を大幅に下回っており、その要因としては原油価格高騰による材料価格の上昇が挙げられています。増収増益となったのは東亜建設工業のみでした。

10社合計では売上高は前年同四半期比0.2%増であり、第2四半期の1.6%増よりも増加率は低下しました。営業利益18.7%減（第2四半期は19.1%減）、経常利益18.7%減（同20.8%減）、純利益19.2%減（同19.4%減）となり利益面では第2四半期よりも若干改善していますが、依然として厳しい状況です。

【図表③ 土木工事業上場主要10社の2022年3月期第3四半期（連結）の実績】

企業名	2022年3月期第3四半期								
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
1 NIPPO	295,838	-2.9%	21,281	-34.2%	22,960	-31.5%	14,780	-32.3%	減収減益
2 東亜建設工業	160,025	20.4%	7,181	6.6%	7,312	3.9%	5,042	13.1%	増収増益
3 日本道路	115,279	0.5%	6,208	-23.0%	6,539	-23.1%	4,362	-23.1%	増収減益
4 東洋建設	113,003	-8.7%	5,522	-38.1%	5,467	-36.6%	3,471	-39.1%	減収減益
5 大豊建設	106,475	-8.6%	4,193	-20.5%	4,439	-15.4%	2,992	-11.8%	減収減益
6 飛鳥建設	87,029	-0.3%	3,036	13.6%	2,830	18.4%	2,031	27.0%	減収増益
7 ピーエス三菱	80,549	-3.8%	5,378	-19.0%	5,412	-18.7%	3,787	-15.3%	減収減益
8 東亜道路工業	78,567	20.4%	2,874	-5.4%	2,941	-5.7%	1,819	-6.9%	増収減益
9 川田テクノロジーズ	78,181	-	5,401	-	5,902	-	3,914	-	-
10 世紀東急工業	61,342	3.5%	2,870	-38.0%	2,853	-37.1%	2,039	-41.2%	増収減益
合計	1,176,288	0.2%	63,944	-18.7%	66,655	-18.7%	44,237	-19.2%	増収減益

※第2四半期まで記載していた前田道路がインフロニア・ホールディングスの子会社となったため、同じく道路舗装工事を主力とする世紀東急工業を主要10社に加えしました

※川田テクノロジーズは2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」を適用することを理由に、決算短信では前年同四半期増減率は記載されていません（10社合計では川田テクノロジーズも含めて前年同四半期増減率を算出しています）

<土木工事業の通期予想> 3社が純利益を上方修正

東亜建設工業、ピーエス三菱、川田テクノロジーズ、世紀東急工業の4社が通期業績予想を修正しています。東亜建設工業は営業利益99億円（前回予想より+9億円）、経常利益98億円（同+11億円）、純利益72億円（同+12億円）と利益を上方修正しました（図表④）。

ピーエス三菱は売上高については1,051億円（同▲46億円）と下方修正しましたが、営業利益66億円（同+17億円）、経常利益66億円（同+18億円）、純利益43億円（同+9億円）と利益は上方修正しました。

川田テクノロジーズは営業利益50億円（同+10億円）、経常利益59億円（同+16億円）、純利益39億円（同+12億円）と利益を上方修正しました。

一方、世紀東急工業は売上高868億円（同▲18億円）、営業利益46億円（同▲3億円）、経常利益45億円（同▲3億円）と下方修正しました。

10社合計では売上高が前期比2.1%増（修正前は、純利益が前期比15.9%減で総合工事業と同じく増収減益の予想ではありますが、減益幅は小さくなっています）。

【図表④】 土木工事業上場主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
NIPPO	465,000	4.3%	42,000	-6.0%	44,000	-6.0%	29,000	-6.7%
東亜建設工業	223,000	17.5%	9,900	13.6%	9,800	6.0%	7,200	5.0%
日本道路	158,000	0.1%	8,800	-18.3%	9,000	-20.3%	6,000	-21.0%
東洋建設	170,000	-1.7%	9,200	-35.5%	9,100	-35.5%	6,000	-34.6%
大豊建設	160,000	-1.1%	8,600	-5.1%	8,600	-8.7%	5,600	-10.6%
飛鳥建設	132,000	12.5%	4,200	5.1%	3,800	3.4%	2,400	-2.1%
ピーエス三菱	105,100	-10.3%	6,600	-21.4%	6,600	-21.6%	4,300	-23.1%
東亜道路工業	115,000	2.9%	6,000	-16.3%	6,000	-17.3%	4,000	-14.8%
川田テクノロジーズ	101,000	-	5,000	-	5,900	-	3,900	-
世紀東急工業	86,800	-3.6%	4,600	-45.7%	4,500	-46.4%	3,300	-36.3%
合計	1,715,900	2.1%	104,900	-13.4%	107,300	-15.3%	71,700	-15.9%

※第2四半期まで記載していた前田道路がインフロニア・ホールディングスの子会社となったため、同じく道路舗装工事を主力とする世紀東急工業を主要10社に加えしました

※川田テクノロジーズは2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」を適用することを理由に、業績予想では前期比増減は記載されていません（10社合計では川田テクノロジーズも含めて前年同期比増減率を算出しています）

※前回見込みから修正があった個所は青字で表記しています

<電気・電気通信設備工事業> 大手3社の利益増加率が低下し、10社合計で減益に転じる

第2四半期の好決算をけん引した電気通信設備工事の大手のエクシオグループ、コムシスホールディングス、ミライトホールディングスの3社は増収増益であったが、純利益の前年同四半期比はエクシオグループが29.3%増（第2四半期49.8%増）コムシスホールディングス13.5%増（同38.5%増）、ミライトホールディングスは9.7%増（同62.7%増）となり、増益幅は縮小しています。

主要10社合計をみると、売上高は前年同四半期比2.1%増（第2四半期は2.3%増）、営業利益は同1.7%増（同9.9%増）、経常利益は同2.1%増（同9.2%増）、純利益は同1.1%減（同10.0%増）となり、電気通信設備大手3社の利益縮小による影響から減益に転じました。

【図表⑤】電気・電気通信設備工事業上場主要10社の2022年3月期第3四半期（連結）の実績】

	企業名	2022年3月期第3四半期								
		売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
1	エクシオグループ	395,310	13.6%	24,589	30.8%	26,534	31.3%	16,258	29.3%	増収増益
2	コムシスホールディングス	389,873	5.1%	27,875	23.2%	28,866	21.1%	19,046	13.5%	増収増益
3	きんでん	375,198	1.2%	19,859	-19.6%	21,805	-15.8%	14,726	-23.9%	増収減益
4	関電工	343,784	-	20,612	1.5%	21,577	1.6%	13,950	2.9%	増益
5	ミライトホールディングス	324,598	6.6%	19,105	23.8%	20,154	18.6%	15,279	9.7%	増収増益
6	九電工	241,283	-9.5%	16,741	-11.4%	19,402	-7.3%	13,787	-0.4%	減収減益
7	ユアテック	160,433	21.5%	5,319	123.2%	5,663	108.6%	3,680	139.2%	増収増益
8	トーエネック	154,817	0.5%	8,281	-20.4%	7,698	-22.5%	5,403	-18.5%	増収減益
9	中電工	122,849	-1.6%	4,486	-22.5%	6,121	-19.7%	3,405	-37.6%	減収減益
10	日本電設工業	105,263	8.3%	795	-86.3%	1,556	-76.7%	1,051	-74.6%	増収減益
	合計	2,613,408	2.1%	147,662	1.7%	159,376	2.1%	106,585	-1.1%	増収減益

※関電工は2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」を適用することを理由に売上高の前年同四半期増減率は記載されていません

※10社合計では関電工も含めて前年同四半期増減率を算出しています

＜電気通信設備工事業の通期予想＞ 10社中8社は業績予想に修正なく、業績予想はほぼ変化なし

電気通信設備工事業の通期業績予想では、ユアテックが売上高2,250億円（前回予想より+50億円）、営業利益90億円（同+4億円）、経常利益94億円（同+4億円）、純利益62億円（同+6億円）と上方修正、また、中電工が営業利益を95億円（同▲2億円）と下方修正しました。他の8社については業績予想の修正はなく、10社合計では、売上高が前期比0.15%増（修正前は0.02%増）、純利益が7.9%減（同8.2%減）となり、ほぼ変化していません（図表⑥）。

【図表⑥】電気・電気通信設備工事業上場主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
エクシオグループ	560,000	-2.3%	37,000	1.0%	37,800	-1.0%	24,100	-0.4%
コムシスホールディングス	580,000	3.0%	43,000	3.4%	43,500	1.3%	29,000	-1.3%
きんでん	548,000	-1.5%	36,600	-14.8%	38,700	-13.6%	26,300	-18.7%
関電工	521,000	-	30,300	0.9%	31,300	0.8%	20,400	1.3%
ミライトホールディングス	480,000	3.5%	32,000	6.2%	33,500	5.5%	22,500	-7.0%
九電工	410,000	4.6%	35,000	6.1%	37,700	5.0%	25,500	1.8%
ユアテック	225,000	14.2%	9,000	6.1%	9,400	2.5%	6,200	7.6%
トーエネック	224,000	3.9%	12,500	-19.4%	11,000	-19.9%	7,200	-18.5%
中電工	189,000	2.4%	9,500	0.2%	11,700	-1.7%	6,800	-16.3%
日本電設工業	166,200	-15.1%	5,900	-58.4%	7,000	-54.5%	4,800	-49.7%
合計	3,903,200	0.15%	250,800	-4.3%	261,600	-4.8%	172,800	-7.9%

※関電工は2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」を適用することを理由に、通期業績予想の売上高の前期比増減率は記載されていません

※10社合計では関電工も含めて前期比増減率を算出しています

※前回見込みから修正があった個所は青字で表記しています

<管工事業> 主要10社合計で増収増益の好調な決算となる

業界トップの高砂熱学工業が増益に転じて、増益企業が第2四半期の5社から6社に増えました。また、大気社は純利益が前年同四半期比3.5%減（第2四半期は45.1%減）となり、大幅に収益性が改善されました。

主要10社合計では、売上高が前年同四半期比3.3%増（第二四半期は1.8%増）、営業利益は同14.8%増（同0.04%減）、経常利益は15.4%増（同2.7%増）、純利益は8.6%増（同8.0%減）となっており、売上、利益ともに改善し、業種全体で増収増益の好調な決算となっています（図表⑦）。

【図表⑦】 管工事業上場主要10社の2022年3月期第3四半期（連結）の実績

	企業名	2022年3月期第3四半期								
		売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
1	高砂熱学工業	200,161	5.9%	7,499	16.6%	8,424	15.4%	5,769	19.9%	増収増益
2	大気社	144,859	6.8%	5,578	-3.9%	6,644	7.3%	4,424	-3.5%	増収減益
3	三機工業	135,723	5.0%	4,949	73.3%	5,544	64.5%	3,684	49.2%	増収増益
4	ダイダン	108,257	-2.6%	4,060	-43.6%	4,399	-42.1%	3,059	-41.1%	減収減益
5	新日本空調	69,886	-3.1%	4,561	31.1%	4,950	27.6%	3,356	24.1%	減収増益
7	日比谷総合設備	51,846	5.9%	4,383	121.8%	4,864	91.8%	3,524	108.0%	増収増益
6	朝日工業社	46,055	-2.3%	923	-10.9%	1,209	-3.4%	-100.0%	-28.4%	減収減益
8	テクノ菱和	39,887	1.1%	1,777	119.2%	2,046	77.3%	1,340	118.2%	増収増益
9	ヤマト	33,918	14.0%	2,797	52.7%	3,083	48.3%	2,147	50.6%	増収増益
10	大成温調	33,852	-0.9%	25	-94.0%	297	-46.9%	-17	-	減収減益
	合計	864,444	3.3%	36,552	14.8%	41,460	15.4%	27,285	8.6%	増収増益

<管工事業の通期予想> ダイダンが下方修正、日比谷総合設備と朝日工業社は上方修正、10社合計の純利益は増加

管工事業の通期業績予想は、ダイダンが売上高1,620億円（前回予想より▲60億円）、営業利益70億円（同▲5億円）、経常利益72億円（同▲5億円）、純利益50億円（同▲2億円）と、売上、利益ともに下方修正しました、一方、日比谷総合設備は営業利益50億円（同+5億円）、経常利益55億円（同+5億円）、純利益40億円（同+5億円）と上方修正し、朝日工業社も純利益を15億5,000万円（同+2億円）と純利益のみ上方修正しました。その結果、10社合計の業績予想は売上高前期比4.4%増（修正前は4.9%増）、営業利益2.1%減（同2.1%減）、経常利益3.2%減（同3.2%減）、純利益3.7%減（同4.8%減）となり、純利益が増加しました。

【図表⑧】 管工事業上場主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
高砂熱学工業	300,000	9.0%	13,800	12.2%	15,000	7.9%	11,000	8.7%
大気社	205,000	1.2%	9,000	-23.0%	10,000	-18.6%	6,000	-27.5%
三機工業	200,000	5.2%	9,500	26.7%	10,000	22.0%	7,000	18.6%
ダイダン	162,000	2.7%	7,000	-20.0%	7,200	-22.3%	5,000	-20.9%
新日本空調	110,000	2.6%	6,000	-6.0%	6,300	-5.6%	4,400	-5.1%
日比谷総合設備	77,000	5.3%	5,000	25.1%	5,500	19.7%	4,000	30.1%
朝日工業社	72,000	2.2%	1,850	-17.2%	2,060	-17.2%	1,550	-14.9%
テクノ菱和	58,000	5.7%	2,100	22.9%	2,300	8.0%	1,500	21.5%
ヤマト	43,500	-0.6%	2,930	-4.9%	3,230	-4.1%	2,180	-4.7%
大成温調	50,500	3.8%	550	-57.8%	730	-49.6%	510	-55.2%
合計	1,278,000	4.4%	57,730	-2.1%	62,320	-3.2%	43,140	-3.7%

※前回見込みから修正があった個所は青字で表記しています

<プラント・エンジニアリング業> 10社合計の減益幅は第2四半期よりも縮小

日揮と千代田化工建設の2社は第2四半期に多額の特別損失（日揮582億円、千代田化工建設203億円）を計上した影響から、第3四半期についても大幅な赤字決算が続いていますが赤字額は減少しています（図表⑨）。レイズネクストは、第2四半期は増収増益でしたが第3四半期は減収減益に転じました。メタウォーターは赤字幅が拡大しています。主要10社合計では売上高が前年同四半期比0.1%増（第2四半期は2.5%増）、営業利益が同6.1%減（同1.4%増）、経常利益が同1.4%減（同1.1%増）、純利益が同158.6%減（同245.9%減）となり、第2四半期よりも減益幅が縮小しました。

【図表⑨ プラント・エンジニアリング業上場主要10社の2022年3月期第3四半期（連結）の実績】

	企業名	2022年3月期第3四半期								
		売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
1	日揮	319,442	4.8%	15,332	-11.5%	19,870	7.3%	-44,397	-	増収赤字
2	千代田化工建設	217,098	-10.7%	8,276	36.5%	8,759	41.1%	-13,658	-	減収赤字
3	栗田工業	211,223	6.7%	25,539	8.1%	20,773	-4.1%	12,031	-18.2%	増収減益
4	東洋エンジニアリング	139,955	5.2%	1,402	-33.5%	1,816	-7.5%	1,225	38.9%	増収増益
5	レイズネクスト	93,822	-6.2%	6,780	-8.8%	7,006	-8.3%	4,428	-11.5%	減収減益
6	タクマ	93,679	-11.3%	5,306	-36.5%	5,907	-34.0%	4,080	-38.5%	減収減益
7	太平電業	89,711	-5.8%	7,028	-12.8%	9,218	8.9%	6,202	11.8%	減収増益
8	メタウォーター	66,597	13.8%	-2,640	-	-2,380	-	-1,824	-	増収赤字幅拡大
9	富士古河E&C	54,883	10.3%	3,023	-0.9%	3,053	-1.6%	2,054	-0.6%	増収減益
10	田辺工業	30,369	13.8%	2,129	8.7%	2,217	8.9%	1,432	9.9%	増収増益
	合計	1,316,779	0.1%	72,175	-6.1%	76,239	-1.4%	-28,427	-158.6%	増収赤字

<プラント・エンジニアリング業の通期予想> 栗田工業が上方修正、タクマが下方修正、10社合計ではほぼ前回予想通り

プラント・エンジニアリング業の通期業績予想は、栗田工業が売上高2,910億円（前回予想より+20億円）、営業利益340億円（同+20億円）、経常利益292億円（同+11億円）に上方修正しました。一方、タクマが売上高1,350億円（同▲20億円）、営業利益97億円（同▲7億円）、経常利益103億円（同7億円）、純利益73億円（同▲3億円）と下方修正しています。

10社合計では、売上高が前期比4.5%増（第2四半期も同じ）、営業利益が同0.3%減（同1.4%減）、経常利益が同4.6%減（同5.0%減）、純利益は▲53億円（同▲50億円）となり、ほぼ前回予想通りになっています。

【図表⑩ プラント・エンジニアリング業上場主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
日揮	470,000	8.3%	20,000	-12.6%	24,000	-5.9%	-42,000	-
千代田化工建設	300,000	-4.9%	11,000	56.8%	9,000	6.4%	-14,000	-
栗田工業	291,000	8.7%	34,000	7.8%	29,200	0.2%	18,000	-5.7%
東洋エンジニアリング	240,000	30.4%	2,500	54.7%	2,500	-10.1%	1,500	84.1%
レイズネクスト	133,000	-8.9%	8,650	-16.7%	8,850	-17.0%	5,850	-20.3%
タクマ	135,000	-8.0%	9,700	-7.4%	10,300	-6.6%	7,300	-3.0%
太平電業	127,000	-0.6%	8,800	18.9%	10,700	28.5%	7,100	26.5%
メタウォーター	135,000	1.2%	7,500	-31.0%	7,400	-33.1%	5,400	-17.5%
富士古河E&C	82,000	10.6%	6,000	1.4%	5,980	1.0%	3,950	1.2%
田辺工業	39,000	2.3%	2,300	-13.3%	2,350	-14.3%	1,600	-8.8%
合計	1,952,000	4.5%	110,450	-0.3%	110,280	-4.6%	-5,300	-

※前回見込みから修正があった個所は青字で表記しています

<住宅・不動産業> 7社が増益、10社合計で売上高と純利益が前期比増の好調な決算

第2四半期は減収減益であった住友不動産が増収増益に転じ、営業利益、経常利益、純利益のすべてで過去最高を更新しました（図表⑩）。業界トップの大和ハウス工業は第2四半期に続いて増収増益でした。純利益をみると、三井不動産が前年同四半期比24.9%増、大東建託が同12.7%増、飯田グループホールディングスが同41.7%増と二桁の増加率となっています。積水化学工業の純利益が前年同四半期比38.4%減となっていますが、これは第2四半期に米国の連結子会社について減損損失を計上した影響によるものであり、営業利益は前年同四半期比44.1%、経常利益は同85.6%と大幅な増益となっています。

主要10社合計は、売上高が前期比3.6%増（第2四半期は6.0%増）、営業利益が同10.7%増（同21.3%増）、経常利益が同11.4%増（同23.9%増）、純利益が同9.5%増（同32.8%）となっており、第二四半期よりも増収幅、増益幅は縮小しましたが、依然として増収増益の好調な決算となっています。

【図表⑩】 住宅・不動産業上場主要10社の2022年3月期第3四半期（連結）の実績

	企業名	2022年3月期第3四半期								
		売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
1	大和ハウス工業	3,147,185	4.8%	253,866	1.1%	254,920	3.9%	167,494	7.9%	増収増益
2	三井不動産	1,466,906	-0.1%	154,529	-6.0%	137,818	-3.8%	123,503	24.9%	減収増益
3	大東建託	1,175,244	6.0%	89,510	15.0%	92,599	14.2%	63,008	12.7%	増収増益
4	飯田グループホールディングス	1,026,418	-6.8%	121,642	40.2%	120,458	41.9%	81,422	41.7%	減収増益
5	三菱地所	904,570	16.3%	172,340	23.6%	150,760	8.1%	87,142	-1.8%	増収減益
6	積水化学工業	838,651	10.9%	57,453	44.1%	62,800	85.6%	12,734	-38.4%	増収減益
7	住友不動産	713,412	1.1%	193,768	8.0%	190,293	8.8%	129,002	0.5%	増収増益
8	野村不動産ホールディングス	361,004	-3.3%	49,135	3.4%	41,178	2.8%	26,859	3.5%	減収増益
9	スターツコーポレーション	139,311	-2.7%	16,216	4.9%	17,048	9.9%	11,334	8.3%	減収増益
10	タカラレーベン	100,042	-	6,403	-	5,182	-	3,603	-	-
	合計	9,872,743	3.6%	1,114,862	10.7%	1,073,056	11.4%	706,101	9.5%	増収増益

<住宅・不動産業の通期予想> 10社合計で売上高は前年比5.5%、純利益は同8.2%増の業績予想

住宅・不動産業の通期業績予想は4社が上方修正しています（図表⑪）。三井不動産は営業利益を2,400億円（前回予想より+100億円）、経常利益を2,150億円（同+100億円）、純利益を1,750億円（同+150億円）に上方修正しました。三菱地所は売上高を1兆3,610億円（前回予想より+350億円）、営業利益を2800億円（同+350億円）、経常利益を2540億円（同+340億円）、純利益を1,550億円（同+130億円）に上方修正しました。野村不動産ホールディングスは営業利益を860億円（同+40億円）、経常利益を770億円（同+30億円）、純利益を510億円（同+15億円）に上方修正しました。積水化学工業は売上高を1兆1,641億円（同+86億円）に上方修正しています。

この結果、10社合計では、売上高が前年同期比5.8%増（修正前は5.5%増）、営業利益が同7.7%増（同4.2%増）、経常利益が同9.9%増（同6.3%増）、純利益が11.7%増（同8.2%増）と、更なる増収増益の予想となりました。

【図表⑫】住宅・不動産業上場主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
大和ハウス工業	4,300,000	4.2%	320,000	-10.4%	316,000	-6.5%	215,000	10.2%
三井不動産	2,150,000	7.1%	240,000	17.8%	215,000	27.3%	175,000	35.1%
大東建託	1,570,000	5.4%	94,000	8.4%	97,000	7.1%	65,000	4.4%
飯田グループホールディングス	1,470,000	0.9%	128,000	5.6%	125,000	4.4%	86,000	3.2%
三菱地所	1,361,000	12.7%	280,000	24.8%	254,000	20.4%	155,000	14.3%
積水化学工業	1,164,100	10.2%	90,000	33.7%	94,000	50.0%	34,000	-18.2%
住友不動産	920,000	0.3%	228,000	4.0%	221,000	5.3%	150,000	6.1%
野村不動産ホールディングス	670,000	15.4%	86,000	12.7%	77,000	16.7%	51,000	20.9%
スターツコーポレーション	195,000	-2.0%	22,500	2.0%	22,300	-4.4%	15,200	-2.6%
タカラレーベン	158,600	-	7,900	-	7,100	-	4,800	-
合計	13,958,700	5.8%	1,496,400	7.7%	1,428,400	9.9%	951,000	11.7%

※タカラレーベンは2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」を適用することを理由に、決算短信では第2四半期実績の前年同四半期増減率、通期業績予想の前期比増減率は記載されていません

※10社合計ではタカラレーベンも含めて前年同四半期増減率、前期比増減率を算出しています。

※前回見込みから修正があった個所は青字で表記しています

<まとめ> 建設業関連6業種、売上高は増収になるも、収益性は低下

主要10社合計の第3四半期の決算実績をみると、6業種すべてで売上高は前年同四半期を上回るなど好調ですが、営業利益では総合工事業が同32.8%減、土木工事業が同18.7%減、プラント・エンジニアリング業が同6.1%減となっており、本業における収益性は低下しています（図表⑬）。6業種合計では売上高は前年同四半期を3.0%増となっていますが、営業利益では3.0%減となっており、建設用関連業種全体では売上高は順調に確保できているが本業の収益性は低下しているといえます。特に、総合工事業と土木工事業は営業利益、経常利益、純利益のすべてが前年同四半期を二桁下回るなど収益性の低下が顕著であり、収益性の回復が喫緊の課題だと考えられます。一方、管工事業と住宅・不動産業は増収増益の好調な決算となっています。

【図表⑬】各業種上場主要10社の実績合計】

	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
総合工事業	6,757,206	3.4%	305,988	-32.8%	345,845	-27.8%	250,145	-25.6%	増収減益
土木工事業	1,176,288	0.2%	63,944	-18.7%	66,655	-18.7%	44,237	-19.2%	増収減益
電気・電気通信設備工事業	2,613,408	2.1%	147,662	1.7%	159,376	2.1%	106,585	-1.1%	増収減益
管工事業	864,444	3.3%	36,552	14.8%	41,460	15.4%	27,285	8.6%	増収増益
プラント・エンジニアリング業	1,316,779	0.1%	72,175	-6.1%	76,239	-1.4%	-28,427	-158.6%	増収減益
住宅・不動産業	9,872,743	3.6%	1,114,862	10.7%	1,073,056	11.4%	706,101	9.5%	増収増益
合計	22,600,868	3.0%	1,741,183	-3.0%	1,762,631	-1.7%	1,105,926	-9.2%	増収減益

※総合工事業は前年実績を公開していないインフロニア・ホールディングスを除く主要9社の合計

2022年3月期の通期業績予想については、今回の決算で10社が純利益を上方修正するなど、上方修正が相次いだため、純利益の前期比増減率は修正前の10.3%減から8.4%減に減少率が低下しており、収益性回復に向けて若干ではありますが前進していると考えられます（図表⑭）。ただし、業種別では総合工事業の純利益の前期比増減率は従来予想の27.9%減から29.6%減に拡大、プラント・エンジニアリング業の純利益は赤字転落となっており、この2業種では収益性の改善が来期に向けての大きな課題になると考えられます。

【図表⑭ 各業種上場主要10社の2022年3月期の業績予想の合計】

<修正前>

	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	傾向
総合工事業	10,627,000	6.6%	499,800	-28.8%	515,500	-29.4%	364,900	-27.9%	増収減益
土木工事業	1,873,700	2.7%	110,340	-17.3%	112,030	-19.6%	76,100	-21.4%	増収減益
電気・電気通信設備工事業	3,898,200	0.02%	250,600	-4.3%	261,200	-4.9%	172,200	-8.2%	増収減益
管工事業	1,284,000	4.9%	57,730	-2.1%	62,320	-3.2%	42,640	-4.8%	増収減益
プラント・エンジニアリング業	1,952,000	4.5%	109,150	-1.4%	109,880	-5.0%	-5,000	-	増収赤字化
住宅・不動産業	13,915,100	5.5%	1,447,400	4.2%	1,381,400	6.3%	921,500	8.2%	増収増益
合計	33,550,000	5.0%	2,475,020	-6.8%	2,442,330	-6.9%	1,572,340	-10.3%	増収減益

<修正後>

	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	傾向
総合工事業	9,916,000	7.0%	456,800	-30.3%	488,300	-28.6%	340,000	-29.6%	増収減益
土木工事業	1,715,900	2.1%	104,900	-13.4%	107,300	-15.3%	71,700	-15.9%	増収減益
電気・電気通信設備工事業	3,903,200	0.1%	250,800	-4.3%	261,600	-4.8%	172,800	-7.9%	増収減益
管工事業	1,278,000	4.4%	57,730	-2.1%	62,320	-3.2%	43,140	-3.7%	増収減益
プラント・エンジニアリング業	1,952,000	4.5%	110,450	-0.3%	110,280	-4.6%	-5,300	-	増収赤字
住宅・不動産業	13,958,700	5.8%	1,496,400	7.7%	1,428,400	9.9%	951,000	11.7%	増収増益
合計	32,723,800	5.1%	2,477,080	-4.6%	2,458,200	-4.2%	1,573,340	-8.4%	増収減益

※総合工事業は前年実績を公開していないインフロニア・ホールディングスを除く主要9社の合計

■このレポートに関する問合せ■

〒160-0023東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿プライムスクエア1階

ヒューマンリソシア株式会社 建設HR編集部 Mail:hrsouken@athuman.com